

「むねのとを ひかりにひらけ」

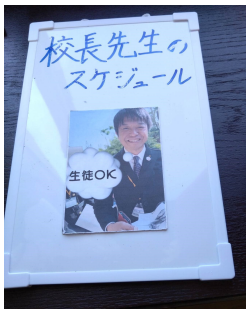
県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ 本格的な夏を前にして…

蒸し暑い日が続いています。校長室の網戸が破れていたのですが、校務員の坂口さんにお伝えすると、私が出張している間に網戸の交換に加え、窓をピカピカに磨き、加えて塗装のはがれていた棚のペンキ塗りまでしてくれていました。窓越しに景色を見下ろします。まるでガラスが嵌められていないかのように向こう側がきれいに見えます。

空の青とグラウンドの薄茶色、そして棚のこげ茶色が1枚の絵画のようにきれいに収まっています。ここまで鮮やかになるんですね。坂口さんの丁寧なお仕事に深く感謝するとともに、坂口さんの負担が増えないよう、もう少しゆっくりと夏が近づいてくれたらと願った私です。

網戸は大切なのです。これは前任校の時からですが、夏の日、私はなるべくクーラーを使わないようにしているのです。そこには経費削減や地球温暖化対策という側面もありますが、本意は「校長室の扉を開いておきたい」との思いで、その実現に扇風機と網戸は欠かせないのです。『むねのとを ひかりにひらけ』ですからね。



とは言え、去年の冬は差し込む廊下の空気があまりに冷たかったので、一時期、校長室の扉を閉めました。すると、プレートを作成してきた生徒から、「自分たちが入ってもいい時には、これを校長室の扉に掛けてほしいな」とお願いされます。『生徒OK』のプレート。「扉が閉まっていると、いつ校長室に遊びにいついにか解らなくて困っているんで…」とのことでした。

確かにそれまでは扉から顔を覗かせて挨拶してくれる生徒がいましたし、その子たちは校長室に入ってきては色々な話をしてくれる生徒でした。そこでこの春に学校をかわる際、私はこのプレートと一緒に転勤することを決めました。今は大切な思い出の品として校長室に保管しています。使われている写真の私が笑っているのが、もちろん気にはなるんですけどね。そう言えば本校でも過日、健康診断で移動している際にわざわざ顔をのぞかせて挨拶してくれる生徒がいました。嬉しかったですね。

心には心で応える人でありたいと思っています。過日のアセンブリー。旧自治会長の退任挨拶と新自治会長の着任挨拶がメインで蒸し暑い校庭。「自分の出番はなくてもいいな」私はそう思っていました。果たして生徒の皆さんが整列できたのは集合完了予定から2分後。全校生徒1000人を超える本校です。しかも今年に入ってからではもっともよい整列状態。でも、私は敢えて一言だけ皆さんに伝えることにしました。

「自治会長が交代する今日は、本校にとって特別な日です。新旧の両自治会長には生徒の皆さんにぜひとも伝えたい思いがあると思います。だからこそこんな日は全員がぴたりと揃って、その瞬間を待ち受ける、そんなふうであつたら嬉しいですね。さあ、ふたりの思いを聴きましょうか」と。実はアセンブリー開始の10分前には生徒がふたり位置についていたのです。美しい光景です。



そうそう、その3日前にはこんなことがありました。授業を終えた小林先生が開けっ放しの校長室に入っただけです。「昨日の放送部のコンテストで加古川東高校が新谷校長の話で番組をつくり、表彰されていましたよ」と教えてくれます。そう言えば3月に取材されましたっけね。放送部の生徒たちは私の話をネタに『使命の継承』との題でラジオドキュメントをつくり、NHK杯に出品。見事に優良賞をいただいたとのことです。

ちなみに偶然にもその日の夕刻、会議に呼ばれた私は3か月ぶりに加古川東高校を訪れました。放送部の顧問の先生は私を見るなり入賞した作品データを渡してくれます。「ぜひ聴いてあげてください」って。その先生の笑顔と、私の前任校でのことを伝えてくれた時の小林先生の笑顔が重なり、胸の奥があたたかくなりました。

ほら、胸の戸を光にひらいていたら、いいことあるでしょ。世の中、そんなに捨てたもんじゃないのです。